



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島司教区 電話099(226)5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間千共1100円



急がれる墓地委員会の再興

カトリック唐湊墓地の健全な運営のために

死者の月にあたり、教区墓地(唐湊墓地II鹿兒島市唐湊)と奄美大島の納骨堂前広場(奄美市名瀬永田町)では二日(日)の死者の日に、亡くなった人のためにミサをささげる予定になっている。カトリック名瀬納骨堂委員会が設置され、委員会が十分に機能している奄美の場合は問題ないが、それが自然消滅している教区墓地では問題が山積している。死者の月にあたり、教区墓地の現状を振り返りたい。

教区墓地の現状

一九五六年に県知事の許可を得た教区墓地「カトリック唐湊墓地」も、開設から六十年近くが経過した。開設から二年が経過した一九五八年には「カトリック唐湊墓地使用規約」が制定され、すでに設置されていた墓地委員会が墓地の運営管理に全面的に協力していた。

長年継続されていた墓地委員会であったが、一九九



毎年唐湊墓地でささげられる死者のためのミサ

九年二月の墓地委員会議事録を最後に会議が開かれた記録が残されていない。原因は、鹿兒島市内の六教会からの信徒代表で構成されていた委員会が、メンバーの高齢化などにより活動ができなくなっていたこと。また活動できなくなった人に代わる委員の選出を行わなかったため、委員会は自然消滅してしまっ。現在、墓地委員として活動があるのは谷山教会だけ。他の小教区では会計・事務担当者が年に一度の「墓地管理費」を徴収しているだけに留まっている。

各小教区の墓地委員と教区墓地委員会の活動が停止してしまつたために、近年、次のような弊害が起こっている。

①墓地所有者との連絡が取りにくくなり、その情報が得られなくなつた。

特に小教区に納入せず、教区本部と直接連絡を取ることになつていた所有者百四十人は、すでにその半数の七十人あまりは転居や何らかの事情でその行方が分からなくなつてしまつている。もちろん、今年の九月に開催された教区評議会でもテーマとなつた「班制度」がその目的を十分に果たしていれば、こういう問題は起こらなかつたのかもしれない。そういった反省も踏まえながら、これらの事態を改善するためにも墓地委員会を再興し、何らかの手立てを講じるなければ、将来、教区が墓地経営を継続して行くのが困難となる。一日も早い、墓地委員会の招集が期待される。

信徒総数は九千二百三十五人

二〇一三年教区現勢報告

二〇一三年十二月三十一日現在の鹿兒島教区教会現勢報告が発表された。それによると、昨年の鹿兒島教区の信徒数は男性が三千四百九人、女性が五千

七百二十六の計九千二百三十五人で、一昨年より三十九人減となつている。信徒総数から居所不明者を差し引いた信徒実数は、居所不明者が新たに種子島

パン種

人はその人生の旅路の終わりに何を思うのでしょうか。その脳裏に去来するものは、旅路の道連れとして寄り添い、共に歩んでくれた人たちのことではないか、と思うのです。

死者の月に思う

その生涯に復活の主イエス・キリストと共に居て下さることは分かつています。そして、それは具体的に日々の生活の中で「かわり」を持つた人々を通して分かることでもあります。たとえば、脆く、弱く、呆気ないほど

生「記憶」を共有する人だからこそです。死別によって、亡き愛する人と共に有している大切な記憶の半分が失われてゆくことは自分にとって、大切な人生の一部分がはぎ取られることに等しいものです。これがとても辛

いことなのです。でも、それは互いにしっかりと向き合い生きてきた「証」です。そして、このことが死別の悲しみを受容する助けとなります。今月は「死者の月」として亡くなった愛する人のために永遠の安息を祈ります。

【二面に統計表】

福者レオ税所七右衛門

殉教祭

2014年11月16日(日)

プログラム

- 12:30 集合(京泊教会跡地)
- 13:00 祈りと聖歌
- ※川内教会へ移動
- 14:50 セレモニー
- 15:00 殉教記念ミサ
- 16:00 殉教地巡礼
- 17:00 解散



主催：カトリック鹿兒島司教区

イルダヤラジ神父の ヨガ黙想会

12月7日(日) 9時30分~16時 場所：マリア山荘 参加費：1000円 TEL0995(58)2994

2013年 鹿児島教区教会現勢報告

FBBとりなし全国大会 in Kagoshima

11月22日(土) 10時 開始ミサ
(郡山司教司式)
11月23日(日) 15時30分 閉会

場所: ザビエル教会
主催: 愛の泉・FBB Sr.ステイファン
担当司祭: サントス神父
顧問: 郡山司教
※どなたでも、どんなグループでも出席できます。出席して下さる方はロザリオをお持ち下さい。

問合せ先: 迫田フミ Tel.099-229-3975
Eメール mak-s.fu3@purple.or.jp

司 教	2人	小教区数	29
教区司祭(日本人)	21人	巡回教会	41
教区司祭(外国人)	5人	集会所	1
教区終身助祭	6人	幼稚園(2,352人)	21
宣教・修道司祭(日本人)	9人	中学校(717人)	3
宣教・修道司祭(外国人)	8人	高等学校(1,165人)	3
修道士(日本人)	2人	短期大学(557人)	1
修道士(外国人)	3人	大 学(681人)	1
修道女(日本人)	122人	保育所	3
修道女(外国人)	16人	その他児童福祉事業	3
女子修練者	3人	老人ホーム	3
教区大神学生	6人	その他老人福祉事業	11
男子一般信徒	3,409人	その他社会福祉事業	11
女子一般信徒	5,726人		
信徒合計	9,135人		

2013年12月31日現在

教会名	信徒数		死 亡	信徒の 移 動		主日ミサ参列者	洗 礼 堅 信			求 道 者	教会学校 (幼・小学生)		教会学校 (中学生)		教会学校 (高校生以上)	
	総 数 ()内男性	不 明		転 入	転 出		幼 児	成 人	信 徒		総 数	信 徒	総 数	信 徒	総 数	
阿久根	56 (17)	0	2	0	0	30	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
出水	178 (65)	4	1	0	0	35	0	0	0	1	3	31	2	2	0	0
入来	91 (27)	0	1	0	0	35	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大口	148 (53)	0	4	0	0	50	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0
川内	316 (125)	13	1	1	1	70	0	2	0	1	13	13	4	4	2	2
鹿屋	260 (97)	36	0	6	8	60	0	1	2	2	0	0	0	0	0	0
国分	176 (72)	4	1	7	1	35	0	0	0	1	5	5	0	0	0	0
志布志	94 (33)	0	0	0	2	30	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
垂水	21 (8)	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
始良	265 (110)	20	3	2	3	55	0	0	0	0	3	3	2	2	1	1
指宿	88 (30)	0	1	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
加世田	134 (56)	8	5	0	4	30	1	2	4	0	0	0	0	0	0	0
鴨池	523 (215)	48	9	2	5	120	2	3	0	2	9	17	0	0	0	0
ザビエル	1015 (338)	42	16	12	7	250	3	16	7	16	21	22	2	3	7	7
谷山	802 (317)	31	10	10	2	200	2	0	0	2	4	16	2	2	0	0
玉里	255 (102)	17	2	6	1	50	0	1	0	1	7	7	5	5	3	3
紫原	174 (69)	22	1	7	4	35	2	0	0	3	5	18	0	0	0	0
吉野	184 (70)	10	2	0	0	70	0	1	2	0	7	15	1	2	7	8
種子島	98 (37)	19	0	0	1	15	0	0	0	0	5	5	1	1	0	0
溝辺	32 (14)	0	0	0	6	12	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
大笠利	591 (225)	55	9	4	3	100	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
小宿	326 (121)	0	9	7	4	70	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
古仁屋	130 (33)	28	6	0	2	17	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
瀬留	368 (144)	0	10	0	0	98	2	3	1	1	0	0	0	0	0	0
大熊	604 (269)	8	2	0	3	230	3	1	1	1	9	9	1	1	0	0
古田町	745 (253)	45	3	0	0	150	3	1	0	0	16	16	2	2	2	20
聖心	829 (314)	22	5	8	8	230	7	6	15	7	16	16	9	9	0	0
徳之島	457 (152)	0	15	2	3	62	4	3	0	3	0	0	0	0	0	0
和泊	175 (43)	3	2	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	9135 (3409)	435	120	74	68	2172	31	44	34	43	127	197	31	33	22	41
							75					197		33		41

鈴木神父のやさしい言葉

神の国の使信

キリスト教の歴史観を踏まえると福音の中心は神の国にあることが分かります。つまり、イエス様を通じて神の国が実現することによって私たちが救われることが福音の目的なのです。ですから、神の国の到来とは神の裁きではなく救いを意味します。ここに洗礼者ヨハネとイエス様が宣べ伝えたものとの違いがあります。

洗礼者ヨハネは神の国の到来は神の怒りと共に訪れることから悔い改めを求めます(マタイ三・2と3並行)。これに対してイエス様は神の国が自分と共に到来していることから悔い改めを求めず(マルコ一・15並行)。神の国とはイエス様の現存と不可分の関係にあります(ルカ四・21、十一・20並行)。このことからイエス様はご

自身を婚宴の中心である花婿にたとえているのです(マタイ九・15並行)。しかし、このような神の国の教えは、エルサレムが世界の中心となる、という当時のイスラエルの政治的な期待に反するものでした(IIサムエル七・12と13)。

実に神の国の福音とは神様がイエス様を通じて語り給うたもの、即ち、神様のイエス様を通じて自己表現と言えます。だからこそこのことを知った人間は何らかの反応が求められるのです。

この人間の応答とは、まず、悔い改めることです(マルコ一・15並行)。次に、幼子のように神の国を信じ求めることです(マタイ九・13と15並行)。実に、神の国の前では従来のこの世の価値観はまったく意味をなさないのです(マタイ十三・44と45)。確かに、現実を見れば神の国が実現するなどは思えないかもしれせん。しかし、私たちの生活の中でほんの少しでも御言葉を生きようとするのであれば神の国は到来します。なぜなら、からし種のとえが語るように、神の国とは始まりは小さいけれども後に大きく成長するものだからです(マタイ十三・31と35並行)。



教区評議会が永山神父から伝えられた「班制度の重要性」。教区報では、永山神父の講話とその後の質疑応答を数回に分けて紹介したい。

「I」テーマ設定の理由について

導入されてから三十年になる班制度。おそらく本土の人は「今、なぜ班制度について考えるのか？」と思うだろう。きっかけとなったのは四年前に奄美大島に行った時だった。名瀬聖心教会へ赴任して以来、ここは班制度を理解していないと感じた。司牧評議会規約はそれとして正しいが、運用の面で班長が存在感を示していなかった。現実を批判するというのはなく、検証して、質問を受けながら、班制度で浮き彫りにしなくてはならないことを共有したい。

今日、私が班制度について話すのは、班制度は三十年前、全教区統一で導入された教区の根本的な制度であり、小教区の宣教司牧を支える土台であること。班制度が目指したものが今本当に必要だということ。廃止しない方がよい。今だからこそ共同体のためにも、宣教のためにも取り組む価値があると確信しているからである。

これから三つの部分で話をしたい。一番目に我々が思っている班制度は何だったか。

なぜ、今、班制度なのか①

教区評議会における永山幸弘神父の講話

Ⅱ 鹿兒島教区が小教区司牧評議会が目指したもの
班制度とは何であったかを六つのポイントに分けて説明したい。

① 班制度・小教区司牧評議会は三十年前(一九八二年)、第二バチカン公会議の要請を受け、当時の糸永真一司教と司祭団が一体になって決めた鹿兒島教

区における司牧宣教の根幹をなす制度である。班制度は班地域の信徒の交わりを目的とし、班分けは地域性を考え、小さく分けた方がよいとされた。また、評議会によって小教区が生きた共同体になり、どんな信者も教会運営に参加しているという意識を持つことが大切で、特定のグループ、例えば壮年会・婦人会が中心となるものではない。

② 第二バチカン公会議の中で「小教区は教区の細胞である」と言われているように、「班は小教区の細胞」であり、小教区の基礎共同体あるいは細胞として宣教・司牧の役割を担う。

③ 教会憲章37番にあるように、信徒は神のこと

ばと秘跡の助けを受ける権利を有し、同時に自分の必要と望みを牧者に表明すべきである。聖なる牧者は信徒の地位と責任を認め、またこれを向上させなければならぬ。これが基本にならなければならない。これが基本にならなければ、小教区司牧評議会は同じ小教区教会の司祭と信徒の対話と分かち合いの公的かつ正式な機関である。

④ 教会憲章4番に「全教会は『父と子と聖霊の一致に基づいて一つに集められた民』として現れる」とある。教会は三位一体の神によって一つに集められた神の民、宣教は人類を一つに集める活動、司牧はその民を一つにする働きとも言える。教会を支える精神は、交わり、対話、奉仕、

貧しさ、共同体、団体的な多様性の中的一致、補完性などである。小教区司牧評議会は、第二バチカン公会議が示したこの教会観に基づき一つの実践である。

⑤ 教区評議会が司教主導型であるように、小教区司牧評議会は司祭主導型である。信徒主導型の信徒使徒職の会とは区別される。

⑥ 小教区司牧評議会の主要メンバーは班員を代表する班長である。

Ⅲ 名瀬聖心教会司牧評議会の課題と軌道修正
① 名瀬聖心教会の実態
これまで名瀬聖心教会、及び奄美地区の小教区では、小教区の活動が婦人会・壮年会の活動であっ

た。つまり、信徒使徒職団体の活動と小教区活動が一体化しており、このことは司牧評議会と班制度の精神を逸脱していた。

② その原因
小教区司牧評議会が企画・決定した行事が婦人会・壮年会に丸投げされていた。そのため信徒総代からの指示系統とは別に、委託された婦人会・壮年会からの指示系統が生じる、或いは後者からのみということもあつた。そのため班長は責任感を持たず脇役となり霞んで見えない状態になっていた。

③ 行事の教会
班と班長よりも信徒使徒職団体の主体性と責任が強くになると、教会は行事の教会になる。そうすると班の

使命である「お互いに知り合い、理解し合い、交わりを深めて寄り添う」ことをしなくなる。班長を主体にした教会運営にならず、司牧評議会本来の姿から外れており、それでは全員参加の教会にはならない。

④ 司牧評議会のメンバー
設立当初から壮年会・婦人会・青年会の各代表が入

文芸俳句

鹿兒島純心 川上 和
一つでも集まる笑顔豊水に
もずの声あの日の想い今ここに
鹿兒島市 徳永ノブ子
生かされて神に感謝の敬老会
秋晴れの外の明るさ部屋に入れ
秋草を活けて野良に立つ知し
奄美市 林 常広
秋深し風吹きたるや枯れ落葉
国分教会 政ノブ子
主の仰ぐ満月今も世を照らす
手作りの扇子に描く夢一字

短歌

鴨池教会 前田 儀子
木犀のしきりに匂ふ縁先に「赤光」を読む
至福の時か
孫の弾くシヨパンの夜想曲ききながら長生きせねばと腹からおもふ
鹿兒島純心 川上 和
ロザリオのこの一連に思いこめ希望の明日を御嶽山に
秋雨やそれにもめげず運動会グラウンド染める乙女らの舞い

出水教会 遠竹 睦郎
身体に障害ある少年の語らひに笑ひを誘ふ秋の一夜
教皇ヨハネ・パウロ二世の女性の尊厳てふ本購ひて我が家で読みゆく静かな秋の夜

私の召命
このたびの召命、いまだ信じられませんが。人間には計り知れない神さまのご計画を思うばかり。司祭という生き方を考えることはありませんが、自ら望んでなるものではない。「なれるものではない」「なるべきではない」「傲慢と思

「自ら望むなど、傲慢と思う」……
ラテン語「vocatio」(召命)の原義は「呼ぶこと」「招くこと」。行為の主体は常に呼びかけられ招かれます。呼びかけられ招かれる側にはありません、客体に過ぎませんから。

頑張っています！神学生

日本カトリック神学院 諏訪勝郎

「自らの望むなど、傲慢と思う」……
青年期にポルトガルで学ぶ機会を得た僕が、少年期に初めて学んだポルトガル語は「パードレ」(神父)と結ぶささやかな予兆。でも今、神学院入学以来、それだけでなかつたと思えてなりません。

この道が真実、み旨であるなら、僕はそれこそ「パードレ」になつてしまいたいです。そうであるとしたら、少年期の邂逅は、僕の行く末の予定表であつたということ。今、神学院で学びながら、僕はこの不思議な導きに畏れさえ感じている次第です。(哲学科一年)



オルガン演奏者のための研修会
ミサ典礼での良い奉仕を目指して
日時：11月29日(土) 13時30分
場所：鴨池教会 参加費：献金形式
対象：オルガン奉仕者、聖歌奉仕者
指導：典礼聖歌アンサンブル(TSE)
※16時から小川神父司式による歌唱ミサがささげられます。また翌日30日(日)には、ザビエル教会での主日のミサ(9時)後、指導に当たったTSEMメンバーによるコンサートが開かれます。

キッペス神父の黙想会
共にイエスを囲んで
12月13日10時~14日16時
場所：マリア山荘
費用：10,000円 (宿泊・食費込み)
申込：090-2083-9223 (福沢)